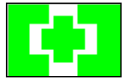


# 令和2年 労働災害発生状況 (建設業)



令和2年統計確定値 ※労働者死傷病報告によるデータ

兵庫労働局 安全課

表1 業種別(前年比較)

※( )内は死亡(内数)

業種別	令和2年(1月~12月)		前年同期		前年比較		
	死傷者数(人)	構成率	死傷者数(人)	構成率	死傷増減数(人)	死亡増減数(人)	
全業種	5,381 (34)	100.0%	4,926 (31)	100.0%	455	3	
製造業	1,119 (5)	20.8%	1,182 (6)	24.0%	-63	(-1)	
<b>建設業</b>	<b>489 (12)</b>	<b>9.1%</b>	<b>473 (11)</b>	<b>9.6%</b>	<b>16</b>	<b>1</b>	
建設業の内訳	(土木工事)	82 (4)	1.5%	99 (4)	2.0%	-17	0
	(建築工事)	280 (5)	5.2%	247 (6)	5.0%	33	(-1)
	(その他の建設)	127 (3)	2.4%	127 (1)	2.6%	0	2
陸上貨物運送業	594 (3)	11.0%	592 (6)	12.0%	2	(-3)	
林業	37 (1)	0.7%	33 (0)	0.7%	4	1	
商業	798 (1)	14.8%	758 (0)	15.4%	40	1	
保健衛生業	1,036 (1)	19.3%	608 (1)	12.3%	428	0	
接客娯楽業	347 (1)	6.4%	382 (0)	7.8%	-35	1	
その他	961 (10)	17.9%	898 (7)	18.2%	63	3	

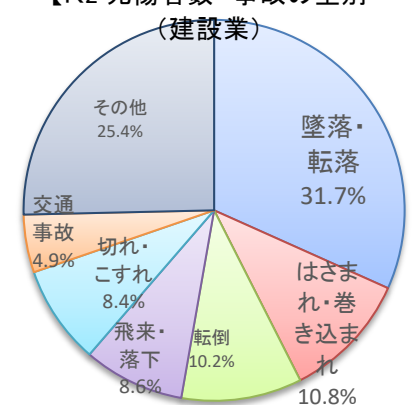
※ 全産業に対する建設業での死亡災害の割合は35.3%(12/34人)を占め、前年と比べて1人増加しています。  
また、休業4日以上の割合は9.1%(489/5,381人)を占めている。このうち建設業の工事別では、建築工事において57.3%(280/489人)で発生しています。

表2 事故の型別(建設業)

※表中の数字は人数、( )内は死亡(内数)

建設工事・事故の型別	死傷者数	(土木工事)	(建築工事)	(その他の建設)
<b>墜落・転落</b>	<b>155 (7)</b>	<b>17 (2)</b>	<b>102 (3)</b>	<b>36 (2)</b>
転倒	50 (1)	9 (1)	29	12
飛来・落下	42 (1)	7	22	13 (1)
崩壊・倒壊	14 (1)	1	12 (1)	1
激突され	17	6	6	5
はさまれ・巻き込まれ	53 (1)	13 (1)	27	13
切れ・こすれ	41 (1)	9	25 (1)	7
高温・低温の物との接触	15	4	3	8
交通事故	24	3	17	4
その他	78	13	37	28
合計	489 (12)	82 (4)	280 (5)	127 (3)

【R2 死傷者数 事故の型別 (建設業)】



※ 死亡災害での事故の型別は、『墜落・転落』災害が最も多く7人で全体の58.3%を占め、また、休業4日以上の災害でも『墜落・転落』災害で全体の31.7%を占め、墜落・転落による災害が多発しています。

表3 事業場の規模別(建設業)

※表中の数字は人数、( )内は死亡(内数)

建設工事・規模別	~9人	10~29人	30~49人	50~99人	100~299人	300人~	計
土木工事	60 (4)	17	1	4			82 (4)
建築工事	207 (4)	55 (1)	12	4	2		280 (5)
その他の建設	72 (1)	41 (2)	9	4	1		127 (3)
合計	339 (9)	113 (3)	22	12	3		489 (12)

※『事業場の規模別』では、全体の69.3%が10人未満の事業場で発生し、また、死亡災害は、すべて30人未満の事業場で発生しています。

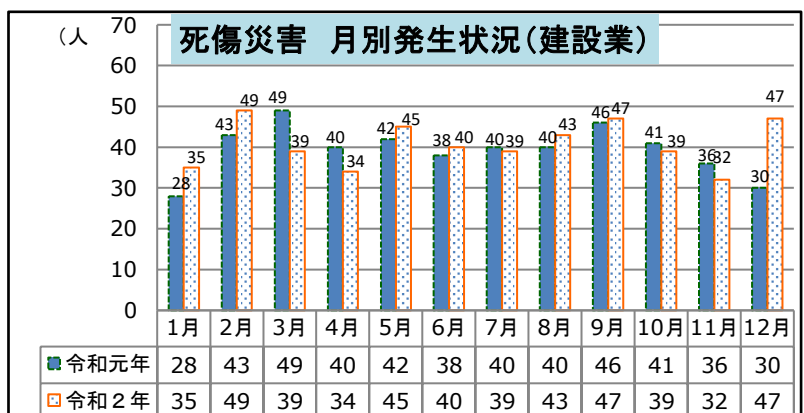
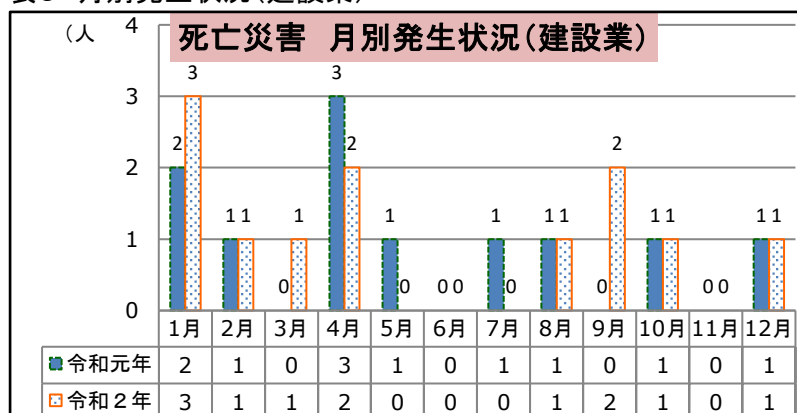
表4 年齢別(建設業)

※表中の数字は人数、( )内は死亡(内数)

建設工事・年齢別	~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60歳~	計
土木工事	2	13	7	18 (1)	18	24 (3)	82 (4)
建築工事	10	61 (2)	45	60 (2)	47	57 (1)	280 (5)
その他の建設	3	28	15	36 (1)	25 (2)	20	127 (3)
合計	15	102 (2)	67	114 (4)	90 (2)	101 (4)	489 (12)

※『年齢別』での発生状況は、40歳以上で全体の62.4%を占め、また、死亡災害は、40歳以上で10人と全体の83.3%を占めています。

表5 月別発生状況(建設業)



## 建設業における死亡災害発生状況(兵庫県内)

### 【建設業 2020年 死亡災害一覧表】(死亡災害報告による)

件数	災害発生		業種	年齢	経験年数	職種	事故の型	起因物	発生状況概要
	月	時間	小分類				分類項目	小分類	
1	1月	14時台	その他の土木工事業	70代	30年以上	鉄骨工	はさまれ・巻き込まれ	移動式クレーン	H型鋼材を連結した土止支保工部材の小バラシ作業をしていたところ、移動式クレーンにてつり上げ中であつたプレートが同部材の下(地面が砂利に覆われていたため、隙間があつた)に入り込んだことで同部材が被災者側に倒れ、隣接の土止支保工部材との間にはさまれた。
2	1月	10時台	機械器具設置工事業	40代	10年以上 20年未満	解体工	墜落・転落	その他の仮設物、建築物、構築物	使用を廃止したアンローダを解体してスクラップとするため、岸壁上に移送して仮置きされたアンローダのAフレーム頂点検台(高さ約40m)で、ガス溶断していたところ、アンローダ前方カンチレバー部分が崩壊し、崩壊とともに折れ曲がり、被災者が投げ出されて地上に墜落した。
3	1月	23時台	機械器具設置工事業	50代	5年以上 10年未満	作業員	飛来・落下	玉掛用具	工事作業員が設備建設工事で使用する重量160kgの鋼製床板(デッキ)をクレーンを用いて玉掛用具のクランプ2個でつり上げていたところ、クランプ2個とも外れたため、デッキが高さ約20mから地上に落下し、地上で跳ねたデッキが、別の作業から戻ってきた労働者に激突した。
4	2月	9時台	その他の建設業	50代	20年以上 30年未満	管理者	墜落・転落	足場	工場内で起動装置製作作業用足場の組立・解体作業を請け負っていた現場関係者が、組み立て作業中の足場の1層目(高さ195cm)の作業床が未設置の開口部(縦116cm×横85cm)から墜落した。
5	3月	10時台	鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業	20代	10年以上 20年未満	とび工	墜落・転落	足場	RC9階建てマンションの大規模修繕工事において、組み立てられた鋼管くさび緊結式足場の北面部分を解体していた被災者が、12段目の作業床から手すり1本とともに墜落した。
6	4月	9時台	土地整理土木工事業	70代	1年未満	車両系建設機械運転手	転倒	掘削用機械	店舗建設のため造成現場で基礎工事等の掘削のため、ドラグショベルを運転し、傾斜角約30度の地山スロープを下っていた時、ドラグショベルが前方へ転倒し、投げ出された運転者の上にドラグショベルのアームが落ち、頭部を挟まれた。
7	4月	14時台	鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業	20代	1年以上 5年未満	その他の作業員	崩壊・倒壊	その他の仮設物、建築物、構築物	配管埋設工事にあたり、障害となっている鋼管杭(直径50cm、高さ1.87m)を撤去するため、杭の根本付近をガス溶断していた時、当該杭が倒壊し、ガス溶断中の被災者が下敷きとなった。
8	8月	13時台	建築設備工事業	40代	20年以上 30年未満	土工	切れ・こすれ	その他の一般動力機械	建設物から浄化槽への排水管敷設工事において、掘削溝内でエンジンカッターで既設のヒューム管を切断中、キックバック(工具が作業員側に勢よく跳ね返る現象)を起こしてエンジンカッターの刃が跳ね上がり、被災者の頸部に刃が接触し、その切創による出血のため死亡した。
9	9月	16時台	砂防工事業	40代	20年以上 30年未満	土工	墜落・転落	掘削用機械	砂防えん堤の基礎コンクリートに設置されている四方を囲まれた型枠の中に入るため、ドラグ・ショベルのバケット内に被災者を搭乗させ、型枠内部へ運搬しようとしたところ、高さ2.8mの位置から基礎コンクリート部へ墜落した。
10	9月	9時台	鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業	40代	20年以上 30年未満	とび工	墜落・転落	開口部	8階建てビルの解体工事現場において、被災者が屋上で鉄筋のガス溶断作業を行っていたところ、作業箇所付近の開口部からコンクリート破片の集積地点までの約20m墜落した。
11	10月	10時台	木造家屋建築工事業	60代	1年以上 5年未満	その他の作業員	墜落・転落	屋根、はり、もや、けた、合掌	蔵の屋根の取替作業中、屋根上で作業していた被災者の方から音がしたので、他の労働者が振り返って確認すると、被災者が地上に墜落して倒れている状況を見つけた。蔵の周囲には、くさび式足場が設置されていたが、手すりは1段で、荷上げのため一部のシートが取り外されていた
12	12月	15時台	道路建設工事業	70代	10年以上 20年未満	土工	墜落・転落	階段、棧橋	立坑に移動式クレーンで横穴を開ける穿孔機を底部に降ろす作業を行っていた。穿孔機が立坑内のらせん状に設置されたタラップに接触しないように、被災者ともう1名が、穿孔機を回転させる相伴作業をしながらタラップを降りている際に、タラップから約15m墜落した。